

謹啓

昨見高澄之事、
 列、其際を又、
 身之、宜して良縁、
 由河法、を専ら、
 無限光榮を、
 殊縁先きの仰、
 神鞭式、世の爲、
 と承、及び、
 風、
 由古、
 然、
 性来、
 甚、
 臨、
 弱、
 換、
 事、
 と、
 一、
 一、
 在、
 拍、
 著、

さきより前途と老を
一端と存し友人と
厚く要妻に催從に遇ひ
た月共配偶に良をえ
拍と我は是近拒絶致し
若し中より今固く下
し而も志に救ふ女の
心苦しき次第且又ある
好運に遭遇して空しく
孤をを守るに女は子
念といふがれ母を一旦
の輕擧手遂に名士の
愛花を傷ひ空しく
己しの素志に反さる他
悔ありし乃ちあるの不
幸に陥る其をいふ縁
結婚し義に堅く申す
申上りて段段重なるも
悪くありし而も諒察後
申上りて決して先方し
如何より又他縁は
甚のあり様ふ次第を
申上りて我にいふに
先づ申すは為の母
二月十日
狂者

石井方少郎

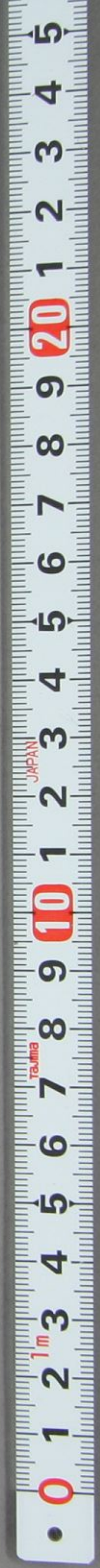
お隈重信殿

付申す為申



早稲田
伯爵大隈重信殿

侍史希中



二月十日

京橋区南鍋所

二丁目一番地久米方

石井公萬次郎